

# 第5回 市民と議会のつどい

## 会議録

日時 平成29年4月15日(土)午後2時開会  
主催 宇治市議会  
場所 宇治市議会棟 3階 第3委員会室

### 1. 開会挨拶

**開会 稲吉 道夫 広報委員会副委員長(以下「司会」)**

皆様、こんにちは。本日は大変に多くの皆さんにお集まりいただき、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

ただいまより第5回市民と議会のつどいを開催させていただきます。私は本日、司会進行をさせていただきます市会議員の稲吉と申します。スムーズな進行に御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

また、本日は後ろのほうで写真及びビデオ撮影を行いますので、御了承のほど、よろしくお願いいたします。

まず初めに、宇治市議会議長石田正博から御挨拶を申し上げます。

### 2. 議長挨拶

**石田 正博 議長**

皆さん、こんにちは。本日は第5回の市民と議会のつどいに御参加をいただきまして、まことにありがとうございます。議会を代表いたしまして、一言御挨拶を申し上げます。

皆様方におかれましては、平素より宇治市議会の活動に格段の御高配と御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、宇治市議会では、これまで積極的に議会改革に取り組んでまいりました。平成23年には議会基本条例を制定させていただき、この条例は宇治市議会の基本理念、議員の責務及び活動原則等を定めて、市民の皆様から選ばれた、市民全体の奉仕者であることを誇りに持ち、市民の意向を的確に反映し、市民に開かれた信頼される宇治市議会を築き、全力を挙げて市民福祉の向上及び市政の発展に寄与することを目的としております。

そして、この目的に沿い、議会活動の報告及び市民の皆様との意見交換の場として、本日、この市民と議会のつどいを開催いたしております。

議会が市民の皆様と直接意見交換をさせていただくという議会としても大変貴重な機会でございます。

本日の内容は、平成29年度宇治市当初予算の審議内容についてでございます。

まず、新年度予算について、予算特別委員会の委員長より審査内容を御説明申し上げます。続きまして、各党派議員及び無党派議員より説明をさせていただき、その後、質疑応答の時間をとらせていただきます。御遠慮なく御質問、御意見をお寄せいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

短い時間ではございますが、実り多いつどいとなりますことを心より御祈念を申し上げます。そして皆様方の活発な御意見を頂戴いたしたい、そのように思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

開会に当たりましての御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 司会

ありがとうございました。続きまして、平成29年度当初予算の審査概要を予算特別委員会委員長の久保田議員からお願いいたします。

## 3. 平成28年予算特別委員会の審査概要の説明

### 久保田 幹彦 予算特別委員会委員長

皆さん、こんにちは。予算特別委員会委員長の久保田でございます。平成29年予算特別委員会の審査概要につきまして、御説明をさせていただきます。

宇治市議会では、平成29年度の当初予算を審議するため15名の議員が予算特別委員として指名を受けまして予算委員会を設置し、3月9日から3月24日までのうち実質7日間にわたり付託されました議案を審査いたしました。

それでは、審査の概要について御説明させていただきたいと思っております。

まず、予算とは、4月1日から翌年の3月31日までの宇治市の歳入及び歳出の総額に当たり、財政面から見た宇治市政の設計書と言うべきものでございます。予算の編成や執

行についての権限は市長にございますが、その予算は議会の議決がないと成立せず、市長は予算を執行することができません。予算は、市民生活に直結した重要なものでございます。市長と議会は、よく車の両輪と例えられますが、議会には、市民の皆様からお預かりした税金が最大限有効に使われるようにチェックすることが求められているところでございます。

次に、宇治市の予算の概要ですが、一般会計と申しますのは、福祉や教育、消防など住民に広く行われる事業の会計のことで、平成29年度は629億6,000万円と過去最大の予算規模となっております。

また、国民健康保険事業、後期高齢者医療事業、介護保険事業、墓地公園事業の4つの特別会計と水道事業、公共下水道事業の2つの企業会計があり、全会計合わせますと約1,204億9,000万円となり、こちらも過去最大の規模となっているところでございます。

次に、平成29年度の予算の特徴でございますが、重点的な取り組みとして8つに分類されております。1つ目は、安全・安心なまちづくりの推進、2つ目は、市民参画・協働の推進、3つ目は、誰もが生き生きと暮らせるまちづくりの推進、4つ目は、切れ目のない総合的な子育て支援、5つ目、未来の宇治のまちの発展と人口減少社会を見据えた都市基盤整備、6つ目に、公共施設等アセットマネジメントの推進、7つ目に、行財政改革の推進、8つ目が、人口減少に歯止めをかける地方創生の推進と、これらの項目を重点項目として取り組まれます。

一般会計予算の収入の内訳ですが、皆様方からいただく個人市民税、法人市民税、固定資産税など市税の合計が約231億円で、これは収入全体の37%を占めています。また、道路や学校施設整備など用途を指定して交付される国庫支出金は約118億円、このほか地方交付税や市債、市債と申しますのは一般的な表現で言いますと銀行などからの借入れの意味を持ちます。などを合わせまして全体で約629億6,000万円となっております。

次に、歳出の性質別の構成はこのようになっております。社会保障関係費、いわゆる老人福祉費、児童福祉費、障害者福祉費、生活保護費等の扶助費が全体の29%を占めており、年々増加の傾向にあります。

次の表は宇治市の家計簿でございますが、一般的な家計簿としてあらわしております。これまで説明させていただきました予算の金額が大変大きな数字となりますのでわかって

いただきやすいよう、この予算を1万分の1に縮小して一般家庭の家計に置きかえた表となっております。

これが、今、家計簿という、従来の収入のほうに新たなローンがあったりして、それから定期預金からの繰り入れといいますか、解約して家計に回すようなものも入っていると、そしてまた従来の住宅ローンの返済、そういうものについても支出のほうではつながっていくということで、非常に財政としてはかなり逼迫、厳しい財源となっているところでございます。

最後に、予算特別委員会では、市長提案12議案と議会提案1議案の計13議案を審査いたしました。審査は、総務部、福祉こども部、建設部、教育部など部局別ごとに審査と実地調査、総括質疑などを行いました。その結果といたしまして、13議案のうち、議会議案以外の12議案が可決されたものであります。

以上が、まことに簡単ではございますが平成29年度の予算の概要及び委員会の報告でございます。どうかよろしく願います。どうもありがとうございました。

## 司会

ありがとうございました。それでは、次に、予算審査について、宇治市議会各会派、そしてまた無会派の議員からそれぞれ説明をお願いいたします。

説明につきましては、各会派6分間とします。そして、無会派議員につきましては3分間とさせていただきます。終了1分前には、こういうふうに今鳴らしましたベルを鳴らせていただきます。そして、6分間経過しますと、連続でベルを鳴らせていただきますので、時間どおりによろしく願います。

それでは、初めに共産党議員団からよろしく願います。

## 4. 各会派・無会派議員からの説明（会派6分/無会派3分）

### 日本共産党宇治市会議員団（以下「共産党議員団」）宮本 繁夫 議員

それでは、皆さん、こんにち。大変お忙しい中できょうの市民と議会のつどいに御参加いただきまして本当にありがとうございます。

予算について、私ども共産党議員団がどのように評価をしているのか、このことにつきまして、今もありましたように時間は制限されておりますので、その特徴について御説明

をさせていただきたいというふうに思いますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

私は、議員の宮本でございます。

一昨年(2016)年の9月定例会、そして昨年(2017)年の3月定例会と2度にわたりまして予算が削減されました太閤堤跡歴史公園整備事業については、この間の3月定例会でも見直しが見られませんでした。頓挫したままになっています。この太閤堤跡は、2007年に石積みやくいども護岸が発見されまして、2009年に国の史跡に指定をされました。私ども議員団は、太閤堤跡が発見されたときから歴史的な遺産として保存することが大事だということで、そのことを求めてきたわけですが、山本市長になりまして2014年に複合施設として整備をするという(仮称)宇治川太閤堤跡歴史公園整備事業計画というのが示されたわけがあります。この計画は、余りにも計画案そのものが過大な事業、70億円を超えるような事業規模になっていることや、またPFI方式によりまして設計や施工・管理運営を20年近くにわたりまして民間事業者に委ねる、あるいは宇治公民館や市民会館を廃止して機能移転をする、こういうことに対していろいろと厳しい意見が出されまして、私ども議員団はこの予算に反対をしまして2度にわたって市長提案が否決、こういうことになっているわけでありまして。その後、市長は、宇治公民館や市民会館の歴史公園への機能移転はしないということを言っているわけですが、3月定例会では具体的な見直し案は出されていませんでした。

JRは、今、宇治川、奈良線の複線化の工事が始まっているわけですが、宇治川の架橋工事、宇治川にかかっています単線ですので、あれを複線にする工事が2018年から2020年にかけて予定で行われるわけですが、それとあわせて、ちょうどJRの駅前にあります、このあたりですが、街道踏切というのがあるのですが、これを今度なくすということになっています。ところが、道路をつかかえるアンダーパスの工事が、2022年が完成年度ということになりますので、そうなりますと先に宇治川架橋の工事で踏切が閉鎖されると、そういうことになりますと公民館、市民会館へのアクセスが非常に悪くなると、どうするんだという問題についてもまだ説明がされていません。

私どもは、こういうふうに考えています。

1つは、過大な計画を見直して史跡として保存していくこと。

20年近くにわたるような、そういうPFI方式はやめて、市が実施をしていく、こういうことが大事ではないかというふうに思っています。

そして、公民館は公民館として建てかえをしていく。今、耐震基準を満たしていないわ

けですからしていく、こういうことが大事だというふうに私どもは考えているところであり  
ます。

それと、予算の中で、市民の皆さんの運動で実現したこともありました。

中学校給食実施へ検討が開始をされました。

そして、医療費の助成の問題ですが、中学校卒業までの通院医療の無料化も実現すること  
になりましたし、長年出されてました療育手帳Bの方への医療費助成も実現をすること  
になりました。

しかし、その一方で、市長はスクラップ・アンド・ビルドということで、そういうこと  
の施策を前進させたわけですから、障害者手帳取得のための診断書料の補助を今まで3,  
000円していたのは2,000円にするだとか、あるいは特別障害手当とか特別児童扶  
養手当等の診断書料についての補助をしているのを廃止するだとか、あるいは障害者の方  
の移動支援とか日中一時支援事業について増をすると。中には、1.2%の負担が10%  
になる、こういう内容も含まれていました。

時間がなくなってきましたので急ぎます。見てください。

学校給食の問題ですけれども、こういう問題が今起こってきました。

大久保小学校で給食の委託をするわけですけれども、1回目の入札で不調になりまして、  
2回目やりましたらごらんのように委託費が高騰するということになりました。4月から  
3つの小学校の民間委託をする業者が倒産をしまして、これもこういう状況ではね上がり  
ましたし、木幡小学校の場合は委託する業者が入札に参加しなくなって、結局宇治市の直  
営の学校から調理師を派遣して臨時職員を採用して給食実施する、そういう事態に今なっ  
ています。

最後に、国民健康保険ですけれども、8年連続こういうことになっておりまして、  
ちょっと時間が足りませんので資料をごらんいただきたいと思います。

どうも失礼しました。

## 司会

次に、民進党議員団さん、よろしく願いいたします。

## 民進党宇治市会議員団（以下「民進党議員団」）今川 美也 議員

皆さん、こんにちは。本日は、このように多くの方々にお運びいただきましてまこと

にありがとうございます。

それでは、限られた時間でございますので、早速進めさせていただきます。

民進党宇治市会議員団から、平成29年度当初予算の審査説明をさせていただきます。

まず初めに、私たちが考えるこれからの宇治市のまちづくりについてお話をさせていただいた後、その考えのもと、当初予算をどのように審査して要望させていただいたかをお話しさせていただきます。

それでは、資料の1ページ目、人口減少社会を見据えたまちづくりということで、左の枠のほうをごらんください。

今までの行政は、全国的に人口が増え続けてきましたので、それに対応するため公共施設を増設してきたんです。そして、社会福祉を公共事業として充実させ、多様化する市民ニーズに対応するため市役所の体制を拡大してきました。そして、矢印右側になります。これからなんですが、全国的に大幅な人口減少社会となってきますので、人口に合わせて公共施設の適正化を図り、社会福祉の面では超高齢化社会を見据えて地域で支えていくことが必要であり、そして多様化する市民ニーズには効率的に対応していくことが大切になるということを私たちは考えております。

そして、2ページ目、ごらんください。

中心にある夢と希望あふれる宇治を実現するために、私たちが考える5つの重点項目というのがございます。この5つの重点項目に沿って、私たちがどのように予算を審査し、要望してきたのか、続いて3ページ目となります。

時間も限られております。抜粋して説明させていただきますが、一番上の行、子ども・子育て・教育についてSNSを活用した情報発信を説明させていただきます。

人口減少、少子高齢化が加速する社会において、若い子育て世帯の定住促進は最も重要な施策の一つとなってまいります。そのためにも宇治市では多くの子育て支援施策を実施していますけれども、それが子育て世代の方々にうまく伝わっていないというのが現状です。そこで、私たちは、以前より子育て情報発信の強化が重要だと要望をしてまいりました。

去年は、子育て情報誌が充実しましたがけれども、今年度は、ついに若い子育て世代に情報をもっと身近に考えていただくために、スマホを利用した情報発信が開始されるということになりました。

これに当たって、若い子育て世代に受け入れてもらえる仕組みと利用者自らが定住促進

につながる情報発信者となってもらえるよう、さらなる情報発信の充実について要望をしました。

そして、4ページ目になります。

福祉・介護・医療・生きがいについてです。

誰もが住みなれた地域で生き生きと暮らすために必要な町内会、自治会なんですけれども、町内会員というのがどんどん減少してきました。体制を維持するというのが難しくなってきているところが現状です。

地域包括ケアなど、宇治市が進める施策にも地域コミュニティーが重要であって、その基盤である町内会、自治会の活性化は市民と宇治市が一緒になって進める必要があります。そのためにも、宇治市に積極的に支援を進めていただくように要望いたしました。

そして、次の5ページ目になります。

観光・産業・商業・農業について、下の産業連関表の活用を説明させていただきます。

産業連関表、ちょっと難しいかと思うんですが、宇治市の産業の連鎖的なつながりをあらわすためのものです。それを活用し、あらゆる分野で市外や京都府下で活躍できる企業の育成であったり支援などの産業振興を進めていただくよう、また、今後の宇治市の産業についての非常に重要な計画を早急に作成することもあわせて要望をさせていただきました。

そして、次のページになります。

魅力発信・都市基盤整備・行財政改革についてです。

年々、人口減少が進んでいるのに、それとは逆に今年度の予算は過去最大規模ということになりました。支出を賄うために財政調整基金を11億円取り崩す予算となっており、非常に厳しい状況であると感じています。

そのため、これからの行政の施策は選択と集中、これは、あれもこれもではなくて優先順位の高いものを選択することも必要で、この選択と集中は宇治市が一方的に決めるのではなく、市民ニーズに合ったものでなくてはならないと考えています。

そこで、市民ニーズを的確に把握するため、マーケティング手法をする必要があるのではないかとすることを要望させていただきました。

また、この厳しい財政状況ではありますけれども、この難局を乗り越えるためには、太閤堤跡歴史公園は今進めるべき施策であり……

時間ですね。すみません。ありがとうございました。

## 司会

次に、自民党議員団、よろしく願いいたします。

### 自民党宇治市会議員団（以下「自民党議員団」）木本 裕章 議員

皆さん、本日は市民と議会をつどいにお越しいただきましてありがとうございます。

自民党宇治市会議員団を代表いたしまして、私、木本が説明させていただきます。

時間が限られておりますので、予算全体に関することについて大きく御説明申し上げたいと思います。

ワードベース1枚ものの資料、もう字だけの資料にさせていただいておりますけれども、まず私どもの基本的な姿勢といたしましては、この資料の冒頭に記載させていただいております。やはり、政治が責任を持って歳出改革に取り組みまして、非効率な事業を洗い出し事業を一つ一つ改善していく、そして予算の縮減・廃止・効率化を行いまして、市民の皆様はその事業の目的や成果・効果をしっかりと明確に説明できる透明性を持った予算編等を目指す必要があるということを第一義として掲げております。

その中で、今年度、平成29年度の予算でございますけれども、今、私ども、自民党の資料をごらんいただいておりますかとは思いますが、先ほど予算委員長の久保田予算特別委員長からも説明ありました資料の12ページ、家計簿の欄がございましたけれども、それを見ながらが一番わかりやすいかと思っておりますが、新聞報道等で過去最大規模の予算と、過去最大の宇治市の予算ということが言われております。

しかしながら、その収入面を見ますと、市税収入等は減っている、ふえているのは基金からの取り崩し、あるいは市債の発行、あるいは府からの支出金、そうしたところのみでございます。

この12ページを見ますと、預貯金の残高が52万円になってしまうと。それに対して、ことし、29年度、貯金からの引き出しは20万円あると。それが長く続けば、当然ながら持続可能な財政運営、これが続くことができない、それはもう明らかでございます。

したがいまして、私ども自民党は、やはり何よりも行財政改革、市役所の中、行財政改革を行いまして予算の使い方、しっかりと効率よく行っていくことを最優先として求めております。

行財政改革と一言で申し上げましても、いろんなことがございます。まずは歳入をふや

す取り組み、それといたしまして、この1枚ものの資料、個別の政策で書かせていただいておりますけれども、やはり国や京都府としっかりと連携をして、国であるとか京都府の補助金、そうしたものを最大限活用しまして、この宇治市においてしっかりと国・府とも連携した政策運営を提案していく、私ども国のほうでは政権与党でございますので、そうしたことを求めていく、あるいは宇治市が持っている財産、ここにも記載しておりますけれども、公園等の駐車場を有料化していく、あるいは市民の力、民間の力、それがさらに活気あふれるものにしていくために、この市役所として何ができるのか、あるいは現有資産、有効活用、アセットマネジメント、そうしたものをしっかりと提言いたしております。

続きまして、やはり歳入の確保の次は歳出を減らしていくということ。私ども、市民サービスの低下、これはやはり避けたいという思い、強くございます。その中で、まずは定数管理の問題、宇治市において、もともと30人職員削減をするという目標に対しまして、現状では14人増加しているという現状がございました。

やはり、これは市が目標設定したことでございますので、引き続き市として歳出削減の姿勢を見せていかなければ、市民の皆様にご理解いただけるようなこの行財政改革、この厳しい財政の中でいような御負担、強いることもあろうかとは思いますが、まずは市が姿勢を示していくということの必要性を訴えさせていただいております。

それから、一つ一つの業務、事業、効率化していく、今、新しい技術がどんどん出てきております。その中で、先ほど説明ありましたようにスマートフォンを使った行政サービスもその一つでございます。市民向けサービスにいたしましても、そうしたICT技術、インターネットであるとかスマートフォンを使うことによって新しい発想、新しい取り組みによりまして皆様方へのサービスが向上することもございます。

また、市の市役所内部での事業、仕事にいたしましてもそうした技術を使うことによりまして効率性を高めることができる、そのことを予算の中でも訴えさせていただきました。

この厳しい予算でございます。予算におきましては、この29年度、こうした事業に幾らお金をつける、そうしたことを審査いたしましたけれども、これを執行するのは市役所でございます。行政でございます。この29年度、私ども自民党、この予算を執行するに当たりまして、やはり先ほども申し上げましたとおり、労働生産性を高める、そして効率性を高める、そして一つ一つ仕事のスピードを速める、そうした取り組みをしっかりと中身のある執行をするように求めさせていただきました。

全体といたしまして、私ども自民党、そうした市役所内部の仕事を向上するよう求めま

したので、御報告させていただきます。ありがとうございます。

## 司会

次に、公明党議員団、よろしく願いいたします。

### 公明党宇治市会議員団（以下「公明党議員団」）池田 輝彦 議員

よろしく願いいたします。きょうは御苦労さまでございます。公明党の池田でございます。

公明党市会議員団の説明をさせていただきます。

私たち公明党市議団は、このたびの予算に賛成をさせていただきました。

ただ、その内容につきましては、大変多くの課題を抱えているものであるという立場で多くの質問、要望をさせていただきました。そのことを御説明させていただきます。

今回の予算審議におきましては、まず、歳入予算について検討いたしました。今回の予算は、その全体において人口が減少し収入が落ち込む中で、前年比0.8%増で過去最大となる629億6,000万円となりました。

資料1枚目にある歳入予算の内訳の中で、繰入金、これは預金の切り崩しということです。市債、これはいわゆる借金について注目いたしました。

めぐっていただきまして、2枚目の歳入について説明をいたします。

まず、市税は、約231億8,000万円で、これ昨年と比べて1.1%減っています。歳入全体に占める市税の割合は36.8%で、6年連続で40%を下回っています。それ以前では40%を切ったことはなく、近年の市税の落ち込みがわかります。市税が多かったピーク時、2008年度と今回を比べると、約57億円も減っています。この市税の中では、法人市民税が約10億8,000万で20.2%の大幅減を見込んでおり、宇治市の台所事情は大変厳しい状況です。

この収入が落ち込む中で、過去最大の予算を組むわけですから、当然お金が足りません。そこで借金をしなければなりません。その市債額は8.2%増の約49億4,600万円となり、これは借りられる最大額となります。そして、まだ足りない分を基金から繰り入れます。これが預金の切り崩しとなり、それが約19億6,000万となります。

続きまして、3枚目の資料は歳出ですが、高齢化の進展などで社会保障費に関する扶助費が約180億4,000万円となり、これ0.5%の減となっていますが、歳出全体の

28.7%を占めており、財政構造の硬直化の大きな要因となっています。

また、投資的経費は、大型事業がかさみ、23.2%の約63億8,000万円となっています。ここにも大きな予算が使われることとなります。

これらのことを踏まえて、資料4枚目の課題となりますが、借金となる地方債の現在高は約456億4,000万円で、年4億2,000万円の利息を払っています。

基金からの繰り入れが19億6,000万円となっていますが、基金の現在高は52億円、このペースでいくとあと2年で底をついてしまいます。

市の計画では、毎年の公債費は65億、市債現在高は500億円未満を守っていますが、今回の公債費は65億に対して58億、市債現在高は500億円に対して456億4,000万となっており、計画の額にかなり迫っております。

続きまして、資料の5枚目の問題点ですが、大変厳しい財政の中で、市長があらわされた施政方針の中で、1、市債発行の精査に努める、2、将来の世代に負担を先送りしない、3、経費削減をする、4、歳入確保による財政捻出に取り組むと言われていますが、今回の予算の内容にはその努力がなかなか感じられておりません。

収入が減少する現在にあっては、今、必要な事業と役目を終えた事業とを洗い出し、経費の削減に取り組まなければなりません。また、公共施設の統合や削減、全国2位のラスパイレス指数の職員給与の問題、定数の削減等、課題はまだたくさんあります。

今回、1課1事業の事業見直しということで約8,000万円の見直しをしました。がしかし、職員給与を約7,000万円引き上げて、市民サービスに使われることはなく、その効果はありませんでした。

資料6枚目の予算に賛成した経緯ですが、この中での予算委員会でしたが、今後の事業の見直しを厳しく指摘し、無駄をなくして将来に負担を残さない持続可能な市政運営に努めるよう強く要望いたしました。

それに対して、市長の答弁では、今後の計画の中で具体的な方向性を示していきたい。また、これまでの行政改革の成果や課題も踏まえ、将来を見据えて市長として責任を持って取り組んでいきたいとの答弁を確認して、今後の取り組み・改善の状況を厳しく見ていくとの姿勢で、平成29年度の予算に賛成の立場をとりました。市民生活の停滞を招かないという立場で速やかな予算の成立と執行が必要ではありますが、宇治市の将来を見据えていく中で、未来に希望を持たない市政運営では意味がありません。

私たち公明党市議員団は、今後も厳しく市の財政運営を監視し、よいものはよい、悪い

ものは悪いと、是々非々の立場で市民にとって何が必要で何が無駄なのか、未来を見据えて取り組んでまいります。

以上で公明党市会議員団の報告を終わります。

## 司会

次に、京都維新・宇治、よろしく願いいたします。

## 京都維新・宇治（以下「維新」）片岡 英治 議員

京都維新・宇治、片岡英治です。

京都維新というのは大阪系の維新の会です。宇治というのは全く大阪維新とは関係ございません。宇治維新ですよと意味で、京都維新のところへ丸が打ってあります。

そんなことはどっちでもいいんですが、今回、予算に関して5点挙げさせていただいております。

そのうちの1つは、宇治川の改修です。天ヶ瀬ダム再開発が始まってもう10年以上が経過しておりますけれども、まだ完全に終わっておりません。そして、その天ヶ瀬ダムの再開発に先駆けて、国土交通省が地元で民間の考え方を取り入れようとして立ち上げたのが淀川水系の検討委員会です。京都大学防災研究所の学識経験者の先生方を中心にして主に河川関係とか防災関係とか、そういった人たちが立ち上げて、その委員会に入っておられたわけです。この委員長のお一人である方が、宇治川は堤防の強化が大事だと力説しておられます。その方の意見によりますと、総事業費、完全に堤防の決壊を防ごうと思えば2,000億円かかる、ミスプリントがございます。24億円じゃなくて2,000億円でございます。これを10年計画でやりますと、毎年200億円ずつですから、こんなことを言っただけではいけないんですけれども、非常に宇治川水系の活性につながるだろうと私は思っておりますが、余りこんなことを言っちゃいけません。

要するに、宇治川水系の市民の皆さんの生命と、そして財産を守るということです。鬼怒川の決壊があってまだ3年たってないと思いますが、行ってまいりました。現地に。宇治川より5倍ぐらい広い、非常に広いところが決壊している、これを見てまいりましたと、これは絶対に宇治川の堤防強化は必要だというふうに思っております。

山本市長も非常に行動的な方ですから、国土交通省から理事待遇で1人来ていただいているわけです。その方と一緒に、ことし初めでしたか、去年でしたか、市長選挙があった

のでこととして、国土交通省に出かけて行かれまして、これは京都維新だけじゃなくて、多くの議員たちが宇治川の堤防強化を要望しております。多分、山本市長は、きょうお見えになっている民進党の国会対策委員長にもお会いされたと思います。今、ちょっと席を外しておられるようですが、5回目でもう国会議員の方も来ていただいているという、非常にうれしいことをちょっと申し上げておきますが。要するに堤防が決壊いたしますと守口の辺は地下鉄が走っております。大惨事が予想されます。これはもうぜひ、宇治川堤防についてはしっかりと要望を続けてまいりたい、そのように思っております。

次、2点目が、教育環境の充実と子供・子育て支援です。トイレ改修、学校給食中学まで、医療費無料化、これをこの件については、トイレ改修についても、もう既に予算化されています。予算化が必要です。で、その中、学校給食、予算化、たしか50万円でしたか、調査があって実施に入るわけでございます。しかし、医療費の無料化については、これ踏み出しておられます。

そして、もう1点の、3点目のことにつきましても、これは実際に重度身体障害者の人たちの医療費負担は最高3割だったんですが、これを軽減されることに市長は踏み切られました。630億円の予算の中でも、いかに大変かということがわかるわけですが、これをやられたわけです。

それから、これは余り市長に聞いていただきたくないんですが、市長は4年ごとに1,600万円の退職金が支給されているわけですが、これはちょっといかなものかと。一般の市民感覚にはそぐわないだろうと。一般の会社で4年ごとに退職金が出ているところがあるだろうかというふうなことから、これは取り上げております。

大阪維新では、吉村市長がもうこれを完全に自分のあれは撤廃されました。

あと1つ残っておるわけですが、これは来年の市民のつどいでやらせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

## 司会

次に、浅井議員、よろしく願いいたします。

## 無会派 浅井 厚徳 議員

皆さん、こんにちは。無会派の浅井厚徳です。

お手元にお配りをさせていただきました私の資料、裏表、裏にもありますので、また後

で説明させていただきますが、平成29年度の当初予算についての私の考え方について申し上げます。

今回、予算編成に際しまして、市民の皆様からお聞きしてまいりました行政に対する要望を139項目にまとめまして、予算要望書として市長に提出をいたしました。

このたびの予算は、山本市長が市長選挙で掲げました選挙公約がどれほど新年度予算に反映されるのかが問われましたが、今もいろいろとおっしゃっておられますけれども、中学校給食実施に向けた取り組み、医療費助成を中学生まで拡大をする、知的障害のある療育手帳Bへの医療費助成などについて予算計上されたことは、市民ニーズに応えるものとして一定程度理解できるところであります。

しかし、幾つかの課題につきまして、公約に掲げておりますけれども予算には反映されていないものもありまして、今後の取り組みを十分に注視していきたいと思っております。

一方では、宇治市の財政収支についてであります。歳入不足に対応するために、財政調整基金と減債基金から大幅な取り崩しを行ったことは今後の財政運営上、果たして適切であったのかどうか改めて検証する必要があると思っております。

裏に移りますが、以下、当面する喫緊の課題について、数点、宇治市への要望なり意見を申し上げておきますが、1つは、太閤堤跡歴史公園事業につきましては、観光に特化した新たな方針を早期に議会に提案できるように全力を挙げていただきたい。2つ目には、宇治公民館について早急に具体的方向性を出すこと。3つ目には、手話言語条例を早期に制定すること。4番目には、学校給食の民間委託につきまして、議会での附帯決議を踏まえ、リスク管理や予定価格のあり方について検証し、改善に向けて検討をすること。

以上、特に申し上げたい点を書き上げました。市民の皆様方の声をこれからも踏まえまして、しっかりと行政に向かっていろいろと取り組んでいきたいと思っております。

以上で終わります。

## 司会

ありがとうございました。

それでは、ここで質疑応答に入りますが、入る前に10分間程度、休憩をとらせていただきますので、よろしく願いいたします。

なお、今も議会の議場のほう開放しておりますので、まだ見られておられない方は、どうぞ、ぜひ議場のほうをごらんいただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

それでは、後ろの時計、3時から始めさせていただきますのでよろしくお願いいたします  
す。

.....休憩.....

## 5 . 質 疑 ・ 応 答

### 司 会

それでは、休憩に続き、つどいを開催します。

6分間の予算説明で、皆さん、大変に御苦労されたと思いますが、大変申しわけございません。少しでも市民の皆さんの質疑等の時間を確保したいという思いからこのような手法をとらせていただきました。どうぞ御理解よろしくお願いいたします。

次に、質疑応答ですが、後ろの時計で3時46分ごろまで質疑応答の時間をとらせていただきますので、質問者の方並びに答弁者ともに簡潔によろしくお願いいたします。

質問につきましては、市政として、市議会に対する質問とし、個人または会派に対してのバッシングはどうか御遠慮いただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、まずは質問を受けたいと思いますので、質問のある方は挙手をお願いいたします。

それでは、2列目の御婦人の方、よろしくお願いいたします。

### 質 問 者

すみません。昨年の10月に市長選挙がありましたね。その折に、私、初めて耳にしたことがあるんです。というのは、宇治市の人口がすごく減りまして、全国ワースト14位ということになっていると。びっくりしました。そんなんでいいのかと。市は対策を練っているのか、どうなのか、即聞きたかったんですけども、私、このつどいには初めて参加したんです。何とか聞こうと思って、それで参加したんですけども、ちょっと皆さんの、予算の、各党が答弁されました。皆さん、全て歳入が減っている、減収していると、これが1点大きな問題で聞いておりました。

それで私は思うんですけども、人口の削減というのは非常に全てに影響すると思うんです。まずは、もう簡潔に言いますが、自治体、地域のあり方、労働人口の減少、消費指標の減少、それで経済、産業、活力が低下します。それに伴って少子高齢化の人口構造は社会保障の負担と税収の落ち込みである、このような切迫した中、何も対策がされてないのかなと。

今、山本市長が頑張っているいろいろな施策をされていると思いますけれども、この人口が減るのは1年や2年で減っているわけじゃないと思います。きょうまでもいろいろな施策をさ

れていると思うんですが、ただこのように減りつつ、減りつつということになっております。何も、私も主婦ですので、そんなに政治に関することは常に関心を持って勉強しているわけじゃないんですけども、対策、何もしておられないん違うか、されてると思うんですけども、失礼なこと言いましたけれども、もっともっと対策を我々の、市民の目に見えるような、市政だよりもあるんですから、市政だよりも一遍は載せていただきたいなど、このような人口減少にはこのように対策を練ってますよと、取り組んでますよというふうなことがちっとも市政だよりには、毎月来ますがここ何年ずっと掲載されておられません。

だから、先ほども言いましたように、社会保障負担と税収の落ち込みであると、このような逼迫した中です。今、宇治市は。皆さん、各党が言われたことは金がない、金がない、金がないと、足らん、足らん、そればかりの1丁1番大きな発言やったと思います。それで、今後は、本当に目に見えたこういう対策をやっていただきたいなど。行財政、もちろん効率の改善を図っていただいて、広域連合も真剣に考えなければならないと思います。

今後、本当にここに出ました、けれども、市長は立派なこと言っておられます。ある党が取り組みを言われたときに、市長答弁では、今後の計画の中で具体的な方向性を示していきたい。これまでの行政改革等の成果や課題等も踏まえ、将来を見据えて市長として責任を持って取り組んでいきたいと、このように発言をさせていただいているんですから……

## 司会

すみません。質問で。

## 質問者

実際に実行していただきたいと思います。今後、魅力ある宇治市に市民の声をよく聞いていただいて、聞くということは大切です。聞いていただいて、安全・安心のまちづくりの推進が不可欠だと思います。

以上です。

## 司会

ありがとうございます。

それでは、質問に関してですが、市長選通しての訴えた人口減の対策についてでよろし

いですか。人口減対策について、通しての質問ですか。

### 質問者

だから、人口が減って、予算が……

### 司会

わかりました。じゃ、各会派から人口減に対しての対策を。  
もう一人、では、すみません、ここで。お願いいたします。

### 質問者

すみません。ちょっと3つについて質問させていただきたいと思います。

1つは、公民館とふれあいセンター、これをどうされるか、耐震化されるのか新しく建てかえられるのか、そのことについてお尋ねをしたいと思います。

それとあわせて、その周りに府道ができますね。新しく迂回路ができると。そのときに民家の買収が行われますね。その買収につきましては、個別の買収をせずに、個別交渉ということを経ずに全体が交渉に入っていけると。個人撃破というんですか、それをすると個人として非常に弱い立場にありますので、そういうことのないようにこれは市のほうから府のほうへ要請、あるいは国ですか、要請していただきたいなというふうに思います。

3つ目は、今問題になってます共謀罪について、宇治市としてどういう態度をとられるのか、このことについてお尋ねしたいと思います。

以上です。

### 司会

ありがとうございます。

それでは、先ほどの御婦人の方の質問で人口減対策について、各会派から御意見をいただきたいと思いますので、それと、先ほどの壮年の方からの公民館、ふれあいセンターについてと、それと府道の迂回路で民家の買収、そして共謀罪について。

それでは、共産党議員団、よろしくお願いいたします。

## 共産党議員団

最初の人口のマイナスの問題ですが、国全体の人口もマイナスになっているという大きな問題があります。市町村単位でいいますと、宇治の場合は入って来られる方より出て行く方のほうが大分多くて、年間1,000人ペースで減ってきているという問題がありますが、主に出て行っている人の多くが20代、30代の子育て世代の人が出て行っているという問題があります。宇治にいと保育所なかなか入れないらしいで、これだけでも宇治から出て行く大きな要因になると思いますので、こうした子育て世代に対して手厚くできる対応をとっていくということが宇治への流入をふやす一つの手だてではないかと。あと幾つもありますが、今、1つ代表的なこと申し上げました。

公民館については、先ほど、あの場所で建てかえるべきだというふうに私どもは主張しています。

府道の で言いますと、ちょっと交渉のやり方については、府と住民の方々の話ですので、詳しいことはちょっと私どもではわかりかねるのと、共謀罪について宇治市がどういう態度をとるかというのは、私ども、共産党ですので御意見はもちろん共謀罪というのはやるべきではないと思っていますが、宇治市がどう対応するかというのは、市の幹部いますけれども、そちらでお答えいただくべき話かなというふうに思います。

## 司会

民進党議員団、よろしく申し上げます。

## 民進党議員団

民進党、松峯でございます。

先ほどの人口減少の関係については、先ほどの総務委員会でもまち・ひと・しごと創生戦略の中で議論があったところございまして、私どもは産業、就職口が宇治市でなかなか見つからないということもありまして、働きの世代がなかなか宇治に定住をしていただけないということがあるということを思っています。その中で、何とか宇治市の魅力を発信していただいて、宇治市に定住ができるように全力を挙げていただきたいということも要望させていただいてまいりました。

公民館の関係では、太閤堤とあわせて市長のほうから提案あったわけですが、2回にわたって市議会のほうでは否決になりました。そういう中では、公民館、公共施設の

あり方検討委員会のいろいろな御議論もありますけれども、アセスメントの関係も含めて今後検討が必要かなというふうに思っています。

道路の関係は、また交渉のほうには市のほうに伝えていきたいというふうに思います。

共謀罪は、今、国会でも審議がありますけれども、きょう、私ども、国会議員も来ておりますけれども、委ねたいというふうに思います。

## 司会

自民党議員団、よろしくお願いします。

## 自民党議員団

まず、人口減少に関しましてですけれども、これは魅力ということと言えますと一言になってしまうんですけれども、魅力といったところで、例えば働く場所という課題もあります。あるいは住みやすさという課題もあります。また、本当にいろんな市民サービス、福祉の観点、いろんな観点がございます。本当にそういうようなものを総合してということになります。先ほど話ございましたけれども、住民のアンケート、今、市がしているところがございます。だから、宇治市に入って来る人、あるいは出て行く人がその魅力というものをどこに要点を置いているかというところを、今、市がやっているところがございます。

私どもの会派といたしましては、上は75から下は31までおりまして、いろんな幅がありますので、会派の中でいろいろと各世代にとってどうかということは会派の中でしっかりと議論をして、宇治市の魅力とは何ぞやというところを議論しながら議会でしっかりと発信していきたいというところがございます。

それから、公民館及びふれあいセンターのことなんですけれども、個別のことにつきましては、今、宇治市全体といたしまして、やはり将来の人口規模を見据えた公共施設の管理計画、考えているところがございます。その中で、やはり必要なものはしっかりと残していく、あるいはこれからの人口規模に備えてふさわしい規模で考えていくということ全体として今議論しているところなので、その中でまた議論していきたいという考えでございます。

道路については、また府のほうにもそれは伝えていくという形になろうかと思えます。

共謀罪について、これは私どもも自民党という立場でございまして、私どもは推進して

いる立場ではございますけれども、先ほどもありましたとおり、国際情勢からの話で、今の国のほうで議論していることでございますので、国のほうの議論に委ねるという形になるかと思えます。

以上です。

## 司会

それでは、公明党議員団、よろしく申し上げます。

## 公明党議員団

よろしくお願いいたします。

まず、人口減少ですけれども、私の考えといたしましては、人口がふえるには子育て世代がふえなければならぬ、このように思っております。子育て世代というのは、やはり市の子育ての施策を見て、ここの市に住んでみたいと引っ越して来られたり転出しないということが大事だと思います。しかし、子育て施策をするには、当然、お金が必要でございます。そして、今、さっき言ったように経済は非常に、宇治市、逼迫しております。財政状況が。ですから、無駄を削減してどれだけ子育て施策に財源を生み出せるかということが大事ではないかなと思えます。

ちなみに、東京都は今年度720億円の財源を捻出、事業を削減してしました。これは、去年の2.4倍になっております。これはどうしたかということ、事業一つ一つを必ず年度を決めて何年後には一遍見直す、何年後には一遍見直すというふうに、全ての事業に年数をかけて、そして一定のところで見直して行って、これは要るのか必要でないのかというふうにやっております。そして、これが必要ない、削減となったら、そこを削減してお金を生み出して、それを子育て施策、さまざまなものに使っていく、こういうことを宇治市もやっていかなければ、収入はなかなか入ってこないわけですから、出る分をどれだけ無駄をなくしていくか、そして子育て施策をして子育て世代に入って来ていただいて宇治市の人口を、人口減少、日本中ですから、宇治市だけふえるということは難しいかもしれませんが、なるべく減らさないようにしていきたいというふうに思っております。

公民館は、今、5館体制ですけれども、これが人口減少していく中でまだ5館必要なのが削減すべきなのか、これはまだ議論中ですので、その議論をしっかりと見守ってまいりたいと思えますし、民家の買収の件けれども、やはり市民の皆さんが弱い立場にならないよ

うに、ということはそのように思っております。

共謀罪については、これは私どもはテロ対策だというふうに認識しておりますので、国の方向性に従ってまいりたいと思います。

以上です。

## 司会

それでは、次に京都維新・宇治、よろしくお願いいたします。

## 維新

わかることだけお答えいたします。

近くの市町村で、京都府下ですが、少子高齢化で減っていく労働力を東南アジアに求めるという試みをしている自治体があります。人口3万人のまちです。商工会議所と行政とが連なって、フィリピンと折衝しています。そして、優秀なしっかりした身元の労働力を連れてきて、そして空き家対策と同時に日本の労働力不足を補えないかということです。行政、商工会議所などがきっちりと対応すればいい労働力は来ると思います。フィリピンに、ある市は狙いを定めて交渉を続けております。これを見守っていき、宇治市の空き家対策と同時に宇治市に導入できないか、今、狙いを付けているところです。

以上です。

## 司会

それでは、次に浅井議員、よろしくお願いいたします。

## 無党派

人口減少をどう食い止めるかということなんですが、人口減少、なぜ減少するのかという要因に、一つは自然減がありますし、もう一つは社会減というのがあると思うんです。自然減というのは、これはもう仕方ない話なんですけれども、社会減をいかに食い止めるかということだと思っております。その中でも、先ほども少し池田議員がおっしゃってましたけれども、若い人たちの転出をどう食い止めるかということになると思うんです。高齢者の方々の転出よりも若い人たちの転出のほうが社会減の中では一番大きいと思うんです。そのための若い世代の対策をやっぱり真剣に取り組んでいかなきゃいけないと思うんです。

よく今までも言われておりますが、待機児童対策といいますが、保育所に入りたくても入れない方、国の定義がありますが、国の定義の前でいきますと140人超してるんです。入れない方が。しかし、もちろん小規模保育とか家庭的保育なんかに入る方も含めたらもっとぐっと減っていくわけですけれども、そういう状況を除きますと140人超えているということがあります。そういういった待機児童対策、これも本当に真剣に取り組んでいかなきゃいけないと思います。

ただ、特効薬というのは多分ないと思うんです。全ての分野について、やはりきちっと若者の流出をどう防ぐかということ、教育も福祉も観光も含めて総合的に考えていかなきゃいけないんじゃないかというふうに思います。

それから、公民館、ふれあいセンターの関係は、これは本当に緊急に一定の方針をやはり市としても出していかなきゃいけないんじゃないかと、こう思います。恐らく出してくれると思うんですけれども、それに際しては市民の皆さん方の意見をしっかりと踏まえて、宇治公民館をどうするか、それに関連してふれあいセンターをどうするかということの結論を出していかなきゃいけない、いずれにしても、いつまでも結論を先延ばしというわけにいかないと思いますので、その辺は関係する地域の皆さん方のいろんな声をきっちりと聞かせていただきながら、我々議会としても判断していきたいと思っています。

共謀罪については、私個人的な意見は、今の共謀罪については反対です。

以上です。

## 司会

それでは、続きまして質疑に入ります。どうぞ。

## 質問者

本日は皆さん御苦労さまです。

いろいろ問題出ているんですけど、太閤堤の問題で、議会と市との意見が対立したわけですね。これは、市長から改めて出さなあかんのか、議会はどういう考え方を持っているのかということ。議会も、二元代表制、それは調整せなあかんと違うのか。

これは、前、大久保小学校の問題もあったんですけども、消防署と建てるということをしたんですが、学校だけはできました。しかし、消防署はほったらかしです。それと同じことが、今度、観光施設に特化してやるということになれば、それができたらもう公民館

はできません。これから公立は減らそうとしているわけですから。そういうこと。

それから、人口減少の問題なんですけど、この間の新聞で城陽市がふえていますね。ということは、城陽市、あなた方、皆、一遍見に行ったらどうですか。いかに活気があって人口がふえて、どういう方策をやっているか。あっちこっち観光旅行みたいに視察行ってはりますけれども、城陽市へ行って見てきてください。どれだけ活気があって何をやっているか。ほん隣に見本があるやないですか。

それと、よく議員さんがあれがない、これがない、宇治市はおくれている、おくれているということをしょっちゅう言われますね。何でそんなことを言うのか。宇治市はこういうことがある、ああいうことがある、しかしこれがおくれているからこれをしたいということなぞ言わんのか。俺はこんな村嫌やと、あれになってしまいますよ。あれもない、これもない、こんな宇治市やということで出て行きますよ。誰を呼んで来るんですか。宇治へ行きたいと思ったら、まず今せないかんのは待機児童の問題です。待機児童は、すぐこれ解決できます。認定こども園にしたら。公立の幼稚園はがらがらですよ。500人の定員で設備と職員さんがいっぱいあるわけです。それが、何で幼稚園と保育所で一緒にしないんですか。そしたら一遍に解決するやないですか。

それと、ヤクルトさんのあれで聞いてますね。ヤクルトさんとか、私はよく行っているけれども、徳洲会さん、いわゆる保育所というんですか、託児所というんですか、皆、事業所、事務所に設置されてますね。だから、それを規制があるのかどうかわかりませんが、そういう事業所に協力を得て、全部宇治市では子育ても働くところも保育所も託児所もありますということをしなかったらよそから入ってこないですよ。若い人がそういうふうには育たないです。そういうことです。

## 司会

あともう一人の方。それじゃ、スーツの方。前のスーツの方。

## 質問者

すみません。私、身体障害者の宇治市の代表をさせてもらっています。

この問題については、昨年、一昨年ぐらいから京阪バスの、結局赤字路線が廃止されたおかげで障害者の移動というものが非常に困っております。その点について、住んで困った宇治市になっておるんです、今。それを、今回、このような膨大な予算を組んでおられ

るのに何か配慮していただいておりますのか、何回も市長にもお願いし、議会にも陳情したりさせてもろておるんですけれども、具体的にどういう形での配慮があるのか、お聞かせ願いたいと。

## 司会

もう一人のお方。後ろの。

## 質問者

太閤堤に60億とか70億という莫大なお金をかけるということはいささかどうなのかと。これは、私も昔の議員のときも言ってましたけれども、それだけの魅力のあるものなのか、ところなのか、非常に疑問に感じております。むしろ、そういったお金についてはもっとほかのところに、それこそ少子高齢化の対策にお金をかけてほしい。

それから、JRの奈良線の複線化が進むわけなんですけれども、この間、私も地元の者として宇治と黄檗間に駅を、(仮称)JR菟道駅新設促進協ということでもう十数年取り組んできましたし、またこれについては自民党の堀議員さんも質問していただいたわけですが、これらについて議会としてどのようにお考えなのか、ほかの会派の方もよろしくをお願いします。

## 司会

それでは、先ほどの質問、ちょっと整理しますと、太閤堤についてと待機児童対策、それについてとバス廃止問題について、JR奈良線複線化、菟道駅についてです。よろしくお願いいたします。

それでは、民進党議員団さん、よろしくをお願いします。

## 民進党議員団

ありがとうございます。いつも傍聴に来ていただきましてありがとうございます。

ただいまも御質問賜りましたけれども、まずは太閤堤の関係ですけれども、今までから市長提案がありまして、民進党といたしましてはいろんな考え方があるわけですが、2回に及んで賛成をさせていただいてまいりました。公民館の関係も、これからの宇治市の財政、いろいろと考えていきます場合に、国費が使える、補助が使えるということであ

りました場合、有利な補助金をいただきながら総合的な建物を建てていくということも大事なことだというふうに判断をしておりましたし、今後も太閤堤につきましても、史跡のゾーンとまた交流ゾーンといたしまして京都府南部のお茶の発信をしていくためにもそういった施設が重要であるというふうにも認識をしております。

それと、人口減少の関係で、城陽なんかも見に行ったらどうやということも御指摘をいただきましたので、一度見に行かせていただきたいと思います。

それと、幼稚園の関係、待機児童の関係ですけれども、いろいろな研究が必要だというふうに思いますし、今、公立のほうもなかなか幼稚園のほうも入園していただく児童が大変少ないということもありますので、そのあり方についても今後検討が必要だというふうにも思っておりますし、現在、そういった検討もしているわけでございます。

それと最後に、身障者の皆様方が路線バスが廃止になった件、大変苦労されているというふうにお聞きをしております。私どもも何とか足の確保をしていただきたいという要望とともに、地域で路線バスの廃止についていろんな検討を重ねていただいて、地域でもバスを何とか、コミュニティーのバスを残していくということで地域でも頑張らせていただいているところもございますので、そういったことも検証材料を見ながら取り組んでまいりたいというふうに思います。

あと、JR奈良線の菟道駅の関係で、御質問ありましたけれども、従来から複線化に伴うて何とかならんかという話はお聞きをしておりますけれども、大変新駅をつくるというのは難しいということもございますし、地元でのやはり盛り上がりが大変必要かなというふうに思いますので、引き続いてまた御意見賜ればというふうに思います。

ありがとうございました。

## 司会

それでは、自民党議員団さん、お願いします。

## 自民党議員団

皆さん、こんにちは。自民党議員団の堀でございます。今般は私のほうからお答えをさせていただきたいなと思っております。

まず、太閤堤の問題に関してですけれども、御承知のとおり、今まで山本市長から2回にわたってこの太閤堤の予算案が提出をされて、議会ではそれはだめだということで一応

突き返したという形になっています。その理由は何かということですが、まず一つはやり方です。PFIという民間の皆さんに設計・建設・運営までを委託するという、やり方としてはこれは決して悪いやり方ではないんですが、ただ向こう20年間にわたって25億ものお金がどういう形で誰がそれを実施するのかわからないものに、議員としてその予算に責任は持てないんじゃないかと、こういうところで反対をしているわけなんです。

さっき、御意見でありましたけれども、相当大きな予算がかかります。数十億がかかりますから、今、私ども議員団で市に対して申し上げておりますのは、この太閤堤に関してはもう一度ゼロベース、原点に返って考え直すべきではないか。限られた予算ですから優先順位をつけてどこに集中すべきなのか。仮に、この太閤堤を進めるのであれば、本当に市民の皆さんにまず喜んでいただける、私たちは、例えば桜の木を植えて市民の皆さんがお花見を楽しんでいただけるような芝生公園にするとか、あるいは、建物を建てるのであれば、私たちは今、この前も市に申し上げておりますのは、お茶のまち宇治にふさわしい茶道の会館を1つつくっていくのはどうかというようなことも提案はしております。

ただ、いずれにしても、大きな費用がかかりますからいろいろと山積する市の問題の中で優先順位をつけて、そして本当に皆さんに御納得のいただける税金の使い方が、まず質も求められると思っています。ですから、太閤堤の問題については、これから私どもとしてもしっかりとゼロベースでこういう施設があるべきじゃないかという意見は申し上げていきたいと思っております。今度、20日かな、建設水道常任委員会で説明があるらしいので、私ども委員ですから、そこでも意見を申し上げておきたいと思っております。

次に、人口減少ですけれども、さっきもありましたけれども、一言で言うとやっぱり子育てがしにくいんだらうなと思っております。公立幼稚園の話もありましたけれども、12月の市長選挙でこれも大きな争点にもなりました。待機児童のゼロに向けて山本市長も私どもが出した候補も具体的にいろんな手法を挙げて公約にしたわけですが、残念ながら今のところゼロにする具体的な山本市長からの答えはいただいておりません。ですから、私どもとしては、まず待機児童をゼロにしていく、そして中学校給食を実現していく、そして子育てのしやすいまちを進めていく、ということでまずは子育て世代の皆さんに宇治市は子育てのしやすいまちとして認知をしていただきたいなと、こう思っています。

バス路線についてですけれども、先ほど御質問いただきましたけれども、障害のある方だけではなくて高齢の皆さんからもいろいろと御意見はいただいております。市に聞くと、これは交通政策だという位置づけになるんですけれども、私どもは、今、少子高齢化の高

齡社会の中で、この足の問題を交通政策ではなくて福祉政策としてもう一度しっかりと考えるべきだと考えています。

ごめんなさい。JR奈良線については、これからも一緒に頑張っていきましょう。

以上です。

## 司会

それでは、公明党議員団、お願いします。

## 公明党議員団

失礼いたします。まず、太閤堤ですけれども、これから新しい計画が出てきます。それが、市民にとっても、例えば観光にとってもよいものであればいいんですが、それはしっかり計画をまず見ていくと。そして、つくるにしても決して今後財政を圧迫しないということが大事だと思います。そして、これもします、太閤堤もします、ほかのもやめません、これではだめです。太閤堤をするのであれば、ほかの無駄を削減して財源を生み出さなければそれはできないでしょうというようなことをしっかり訴えてまいりたいと思います。

人口減少に関しては、先ほどの子育て施策のところでも先ほど言いましたけれども、やはりこれも財源を生み出して子育て施策をしっかりやっていくということが人口減少に歯どめをかけ、また宇治市は大変魅力のあるまちだと私は思っています。この魅力がなかなか伝えきれてないんじゃないかなと思いますので、このあたりもしっかり宇治市の魅力発信の事業をやっていっていただきたいと思います。

バスに関しては、明星町、走ってますけれども、朝晩ありますが、なかなか昼間の時間が少ないということで、これも訴えさせていただきましたので、明星町ももう少し利便性のある時間帯にバスを走らせていただきたい。また、小倉は試験運転がマイクロバス、始まりました。これがうまく本格的になりますようにしっかり頑張っていきたいと思えますし、いまだ走っていない槇島、これは、今、町内会と調整していただいておりますけれども、これもまず試験運転、そして本格実施というふうにもっていただきたいと思っておりますし、菟道駅に関しては、本当に完成して地元の方が便利で喜んでいただければよいかと思っておりますので、私たちもその方向性で考えていきたいと思えます。

以上です。

## 司会

次に、京都維新・宇治、よろしく申し上げます。

## 維新

交通の問題です。安倍内閣は、今、どんどん特区制度というのを発信しております。それによりますと、ドライブシェアリングという特区制度があります。これは、タクシー業界から反対が多いんですが、ボランティアでもってお客さんを自分の自家用車に乗っけて好きなところへお送りすることができるわけです。そして、ガソリン代として200円なり300円をもらう、そういう制度を取り入れてやっている自治体はあります。ところが、宇治市の行政はそういう制度があるということも知らないようです。これをどんどん進めてもらうように頑張りたいと考えております。

太閤堤です。甲府盆地に信玄堤というのがあります。皆さん、行ってごらんになりたいですか。太閤堤って、しょせんその程度なんです。だから、それを否定するわけではありません。秀吉が16世紀の終わりに巨椋池の流れを変えたから、これだけどんどん洪水が出てきた。だから、苦労して防波堤みたいなものをつくっている、これが太閤堤ですよという、これは残しておきたいと思います。だけど、当初予算のような100億円近いというお金は必要ないし、ほかの業界を圧迫します。レストランなんかを設けたら、そのあたりの業者を滅ぼすことになります。そういうふうなことも考えたら、やはり100億円近いお金をかけるということについては慎重にやってもらいたいと思います。宇治市には、雨が降ったりしたら弁当を広げるところがありません。だから、太閤堤をそういう近隣の人たちが来て弁当を広げられるような、そして太閤堤を保存できるような、その程度で十分かと思えます。

駅の問題は、ちなみにJR小倉駅は当初かかった費用は15億円です。太閤堤の総予算は当初は100億円です。どっちを優先すべきでしょうか。おのずと答えは出てくると思います。そういうふうなことを考えれば、もっともっと議論を重ねなければいけないというふうに思っております。

以上です。

## 司会

それでは、浅井議員さん、よろしく申し上げます。

## 無会派

全てが全てお答えできないかも知れませんが、順不同になりますが、まずバス問題ですが、今、御質問いただいた方からも、これまでも障害者団体のほうで本当に毎年のようにいろいろと声を上げられておられます。今現在、西ノ端地域の場合は、ことしの夏に試行的に、当初はマイクロバスだったんですがタクシーを活用して週2回ですけれども試行運転でスタートしていくということになりました。宇治市役所のほうまで行って、またそれから戻ってくるということで、そういう形になっていますが、これは財源的な問題がありまして週2回運行ということではスタートできないということになります。会費制、会員制ですので、だんだんと会員がふえていけば週2回が週3回、4回とふえていくことになってまいります。そういった　　で、ことしの夏ですので、しばらくスタートしてから地域の皆さん方のいろんな動きをまた見ていきたいと思いますが、私は将来的には、さっき堀議員さんがおっしゃってましたけれども、宇治市全体の一つの交通政策としては福祉バスをやっぱり提案していかないといけないんじゃないかなというふうに思います。どどここの地域に限定せずに福祉バスという形で行政がお金を出して、一定程度、行く場所ももちろん決めなければいけないと思うんですが、福祉バスという方式で将来的には考えていかなければいけないんじゃないかというふうに思っておりますが、ただ、財源の問題、財政の問題に尽きると思うんですが、この辺、またこれからもしっかりと議論していきたいと思っております。

それから、太閤堤の関係は、私は過去2回の提案に対して賛成してまいりました。平成19年の久保田市長のときに太閤堤が発見されて、新しい宇治市の観光拠点にしていこうということでスタートしたわけでありまして。もう10年近くその取り組みが続いているわけですけれども、この間、いろいろと市民の意見をお聞きするようなパブリックコメントも過去3回ほどありました。4月20日の委員会で新しくまた少し見直された案が出されるというふうに聞いていますけれども、財政をしっかりと見ながらよりよいものにしていかなきゃいけないというふうに思っております。

以上です。

## 司会

共産党議員団さん、よろしくお願いします。

## 共産党議員団

4つの点について、私どもの考えを述べさせていきたいと思いますが、太閤堤につきましては、先ほど、私、冒頭説明しましたように、3つの問題があるというふうに思っています。予算規模が70億円を超えるということでありますから、それが本当に今必要なのかどうかということです。植物公園もつくったときもそれぐらいの規模になったんですが、今でもやっぱりそういう運営、ランニングコストがかかって大変だということがあるわけですから、それはそういうことについてはやっぱり見直していくべきだというふうに思っています。

それとあわせて、公民館をなくしてそこに機能移転をするということを言っていたわけですが、それを機能移転しなくするわけですから、そしたら公民館は、私も3月議会、12月議会でも市長に聞きましたが、教育委員会は公民館5館体制は堅持をすると言っているわけですから、その機能移転ができなくなったらきちっと今の公民館が公民館としての機能が果たせるようにすべきだというふうに私どもは考えています。

待機児の問題ですけれども、これ、この5年間、6年間見ましても過去最高の待機児になっているんです。ことしの4月で144人、去年が122人でした。平成24年は94人でしたから、右肩上がりずっと伸びてきているわけです。ことしの予算で新しく保育所をつくるのはありません。この4年間つくってませんでして、定数増があるんですけれども、今年度は50人の定数増を図るということですから、とても足りないと思うんです。やっぱりこれは拡充をしていく必要があるというふうに私どもは考えています。

それから、移動手段の問題ですけれども、先ほどからも議論もありましたが、今、市長がやっているのは、前回の市長選挙のときに市長が福祉バスを走らすということをマニフェストで公約しておられたんです。ですから、私、議会でも何遍もそのことを質問したんですけれども、今の市の考え方は、とりあえず路線バスのなくなったところについて乗り合い事業をやると、そのことをまずやるんだという話なんです。私は、路線バスがなくなったところに、地元負担でさすことはいかがなものかと思うんですけれども、それは路線バスがなくなったところの補償なんです。宇治市内は、御存じのように路線バスが走っているところというのは知れているわけです。道路も狭いわけですから、幹線道路を走らせただけでは、なかなか高齢化が進みますと府道まで出てきてバスに乗ることが困難になっ

てきているわけです。ですから、私どもは今全国で進んでますけれども、デマンドタクシーということで乗り合いタクシーこういうことがやられているわけですが、そういうことをやっぱり目指していくべきではないかというふうに考えています。

菟道駅については、地元の皆さんが頑張っておられますので、そのことはよく運動の盛り上がりの中で私どもも考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

## 司会

それでは、続き質疑をとらせていただきます。それとあわせて、質疑されたい方、いらっしゃいますでしょうか。

青のジャンパーの方、よろしくお願いします。

## 質問者

3年前もちょっと同じことを聞かせていただいて、その後どうなったかと思ったんですけども、それは健康保険料の引き下げの問題なんですが、その当時の各会派の皆さんの回答というかお答えは、財政状況が厳しいと、難しいんだということで、そういう御意見ありました。共産党とか民進でしたかが賛成でしたか、たしか引き下げ、それはいいんですけども、改めてその後の経過見てましたら黒字がずっと続いているんです、これ。4億円とか5億円とか。だから、そういう意味では、しかも宇治市からの一般財政からの繰り入れもないということであれば、これは加入者が払った保険料がそのまま黒字になると、単純に言えばそういうことだと思えます。そしたら、その基金というんですか、を活用してその分だけでも最低でも引き下げをすとか、あるいはもう一つ大事な点は、国保に対する考え方、位置づけがどういうぐあいにされてるのか、いわゆる社会保障だという位置づけになっているのかどうか、それが一番肝心なことだと思えますが、改めてお聞きしたいのは、この国民健康保険料の引き下げについて、全会派からひとつ御意見をお伺いしたいと思います。

以上です。

## 司会

それでは、次、よろしくお願いします。

## 質問者

伊勢田町から来た者なんですけれども、うちの、例えば、若林というところに住んでるんですけども、そこは300世帯ぐらいあるらしいんです。そこで町内会に入ってるのが100世帯ぐらいで、つまりもう町内会、全然成立してないんですよ。町内会と呼んでいいのかわからぬかすらわからないぐらいの状態なんですけれども、ですから、そうやってどうなってるかという、結局住んでる人たち、地域社会が、地域コミュニティーがばらばらになっているという感じだと思うんです。そうなりますと、やくざとかちんぴらみたいな人がはびこってくるというふうになってくるんですけども、そういう人たちの子供ってヤンキーになるんで、そうなりますと、昼間から公園とかコンビニの前とかにヤンキーがいるわけです。そうしますと、それは当然お子さんとかおられる世代の方は出て行かれると思います。危ないと思って。

多分、そうやってコミュニティーが非常に成立しがたくなっているという状況を、政治家とか行政の方というのは、もう権力の方になると思いますので、そういう人たちが何かみんなを引っ張っていく、地域社会を引っ張っていくというのはまた違うと思うんですけども、ただやっぱりそうやって今コミュニティーが非常に成立しにくくなっているという状況を踏まえて、いろいろ制度とか考えていっていただきたいと思います。そうしないと、制度が全然機能しない、うまいこといかないというか、多分空振りというほどではないかもしれませんが、十全には機能しないだろうと思いますので、コミュニティーというのができれば、今の現状としては非常に成立しにくくなっている状況にあるということと、あと引っ張って行ってくださいというわけではないんですけども、ただそれをより積極的に、皆さん、地域社会、住んでいる人たちが自発的につくっていきけるような状況をつくっていただくようお願いしたいです。

以上です。

## 司会

わかりました。

整理しますと、国保、引き下げについて、それと地域のコミュニティー、自治会加入率が低くなっている、減少していることについて、よろしく願いいたします。

それでは、自民党議員団さん、よろしく申し上げます。

## 自民党議員団

失礼いたします。今、大きく、お2人の方から2つの質問いただきましたけれども、私のほうから国保の引き下げについてお答えしたいと思います。

今、国保の会計が黒字だと、こういうお話でしたけれども、まず黒字の定義ということを考えていく必要があると思います。私どもが、普通の民間の感覚で考える黒字というのは、国保事業そのものの国保料の収入をもってその事業が全て運営されていることを黒字、あるいは収支のとれた、バランスのとれた運営だと言えらると思います。もちろん、先ほども御紹介いただきましたように、一般会計からも法定内の繰り入れはしております。つまり、繰り入れをしてこの黒字経営が保たれているという状況だということを、まず御認識をいただきたいと思います。

それと、もう1点は、やはりこの国民健康保険とあと社会保険、いろんな保険がありますけれども、いろんな保険に加入をされている中で、いわゆる市民の皆さんからお預かりしている税を分配するのにどのような形で分配すると一番公平性が保たれて全ての皆さんから御支持をいただけるか、御信頼をいただけるかというところも考えていかなければならないと思っていますので、やはり今おっしゃっていただいた、報道等にあると、当然、国保の会計が黒字だという言い方をされておりますので、お気持ちはすごくよくわかっておりますけれども、ただ、依然として国保会計、国保事業自体は非常に脆弱な事業だということは言わざるを得ないと思いますから、もし国保料を下げるということであれば慎重に考えて御提案しないといけないなと、御提案というのもおかしいですね。考えないといけないなと思っています。

あと、町内会については、木本議員から。

すみません。町内会に関してなんですけれども、各町内の事情等あると思いますので統一したことということは非常に難しいんですけれども、ちょっと個人的な、私自身も昨年、自分の町内会で役員させていただきました。輪番制でちょうど当たったんですけれども、輪番で当たった若い役員の方、最初1、2回の役員会的时候は、もう面倒だと、すごい町内会嫌だなという感じだったらしいんですけれども、若い役員会同士でスマートフォンでグループ作りまして、そこで若者同士で、正直、役員会ある中でもちょっとそこで愚痴まで聞いたりはしていたんですけれども、しておりました。若いその役員さんに1年間終わって聞いたんですけれども、最初はこんな町内会の役員とか絶対やりたくない

言っはったんですけれども、しかしながら若い人同士でグループつくって、そのメンバーというのは、私もそうなんですけれども、いまだに一緒に食事とか行ったりしております。地域でそういうことができる仲間ができるとは思わなかったと言っはります。だから、やり方次第、新しい技術を使うことによって地域コミュニティーというものも維持できるかなと、私自身、今、自分の町内会で実験しているところであるんですけれども、それを何とか広めていきたいなとは考えています。

## 司会

では、公明党議員団さん、お願いします。

## 公明党議員団

失礼いたします。国民健康保険ですけれども、私どもは単年度では下げることが可能であったとしても、それが毎年にならなくて下げることはできない、このように思っております。一度下げてしまえば、やはりなかなか上げるのは難しいですし、また大きなやり病等、大きな病気の蔓延あったときに大きなお金が要る、そういうためにはお金をためておかなければいけない、そのような理解となっております。

町内会に関しては、やはり私も町内会長を以前させていただいて、役が大変だと、このあたりが大きな問題になっているのかなと思います。宇治市もそれをサポートする冊子を発行してはいますが、なかなかやはりそのコミュニティー、コミュニティーでサポートする体制、会長さんになったら会長さん1人にもものすごく大きな負担がかかる、このあたりの負担を分担してできるような体制、どなたがなってもできるような体制を築いていかなければ、なかなかやっぱり役に当たるのが大変だということで町内会を抜けてしまうというようなことがあるのじゃないかと思っておりますので、そのあたりの体制をしっかり今後検討して、どのコミュニティーもどなたでも役ができる、またそういったことでは町内会に皆さんが入っていただけるような体制を宇治市としてもつくってまいりたいと思いません。

以上です。

## 司会

京都維新、よろしくをお願いします。

## 維新

町内会の問題ですが、自分が火をかぶってでもそういったいろんなことを防いでいこうという気構えある人が3人あれば町内会はできると思います。私は、町内会長になるのが大好きで、あっちこっちで町内会長をやってまいりました。その話は、それまで。

健康保険の問題、630億円のうち実際に税収入は40%を切れるんです。だから、630万円の生活をしている人が実際の収入は200万円しかない。いずれにしても、京都府か国からの交付金でやっているわけです。だから、健康保険料についても、やはり1回ぐらい下げてもいいんじゃないかと。京都維新は下げるほうに賛成をしておりますが、何しろ議会は数の問題でございます。あと、19人ぐらい賛成が必要でございます。駆け引きの問題でございます。

以上です。

## 司会

浅井議員さん、よろしくお願いします。

## 無会派

町内会なりコミュニティの問題ですが、やっぱりいろんな困難な条件がありますけれども、町内会は町内会として必要性は非常に強いと思うんです。私も何年か前に宇治川が水位が上がったときに、避難指示、避難をみなさいという、宇治市内広範囲にそういう指示があったときに、なかなか外に出てこないんですね。皆さん方が。家の中での情報にとどまってしまっているというか、本当に隣近所ぐらいはもちろん何人か出てこられるんですけど、やっぱりそういういざという時に外へ出てお互いに情報に知ろうというような、そういうことができるようなそういう地域の雰囲気をつくっていかないといけないんじゃないかなというふうに思いました。

町内会の運営は、本当に高齢化してきて大変だと思うんですが、常々私も言っておるんですが、できる範囲でできるところをやったらいんじゃないかというふうに思っていますし、何か、昨年やったことをそのまま全部やらなきゃいけないというふうなことを思わずに、できる範囲でできるところをやっていくということで、やっぱり無理をせずに取り組んでいかないといけないんじゃないかなというふうに思っております。

それから、国民健康保険の関係ですが、私も文教福祉常任委員会に入ってまして、何回もこのことについては議論をしてきています。国民健康保険を値下げするということについては、それ自体は決して、何ら、もちろん否定しませんが、私自身は、これまでとにかく値上げだけは絶対するなということで、現状のままで、せめて現状維持を踏まえてほしいということはずっと言ってきました、そのために一般会計からの繰り入れももちろんやっていくということで続けられています。ただ、京都府への広域化ということが目前のことになってきましたので、これから国民健康保険の保険料のあり方含めてしっかりとまた引き続き議論をしていかないといけないなというふうに思っております。

以上です。

## 司会

共産党議員団、よろしくをお願いします。

## 共産党議員団

国保の問題につきましては、先ほど、私、時間が足りませんでして御説明ができなかったんですけども、資料を見ていただいたらいいんですが、私どもはここに書かせていただきましたように可能だというふうに考えています。国保に対する考え方の問題なんですけれどもいろいろ議論があるんです。保険料で賄えるような保険しなければならないという御意見もあるんですけども、そうなれば民間の保険と一緒になんです。やっぱり社会保障なんですから、私たち税金納めているわけですから、そこから公費を入れているということが大事なんです。それを国がだんだん国費を入れるのを減らしてきてるわけですから、保険料の負担がふえてくるということになるんです。

市は、何でそんなに基金に貯金をしておくかといいましたら、いざというときのために医療費が払えなかったら困ると言うんです。宇治市の国民健康保険が昭和35年にできたんですけども、それ以来、毎年年度初めに予算を立てるわけです。ことしは医療費がこれだけかかるかということで立てて保険料を決めるわけですけど、いまだかつて途中で病気がはやって当初の予算が足りなくなって基金を取り崩さんと病院に医療費が払えなかったことなんか一度もないんです。ですから、そういうことをまだ当局は言ってるわけですよ。ですけども、やっぱり私どもは、みんな社会保険、国民健康保険は通るわけです。会社に勤めておって協会健保であったって、定年になったら国民健康保険に入らざる

を得ないわけです。ですから、やっぱり一部の人だけやというのを市なんかはよく言うんですけれども、これは入っているのは一部であったって、みんなが通る、利用するわけですから、きちっと公費も入れて保証していくということが大事なというふうに私どもは思っていますし、国民健康保険の保険料は、私どもは引き下げが可能だということで具体的な提案もさせていただいているところです。

それから、町内会、自治会の問題ですけれども、いろいろ運営の問題とかいろいろあるわけですけれども、私も役員をさせていただいてつくづく思うのは、行政は町内会が地域コミュニティーの核として大事だということであるという言われるわけですけれども、そういう行政からの仕事が結構多いんです。私も毎週のように回覧、回さなあかん、ちょっとためて回すんですけど、そうなったらまた厚くなってホチキスでとめてもあかんということがあるんですけど、そういう行政が町内会を大事にするんだったらその関係もしっかりと整理をしていかなければいかんと思います。同時に、我々自身も運営の仕方を研究していく、そういうことも大事なというふうに思っています。やっぱり、町内会、自治会というのは大事にしていかなければ、本当にお互いがきずなをつくっていくことが非常に大事だというふうに思っています。

## 司会

すみません。次に、民進党議員団さん、よろしくお願いします。

## 民進党議員団

はい、よろしくお願いします。国保については、本当に加入されている方々にとって負担というのは決して軽いものではなくて、その支払いにも御苦労されているということは私も十分に承知しているところではあるんですけれども、やはり国や府、ほかの医療保険制度からの財政支援初め一般会計からの多額の繰り入れなどにより制度の維持が図られております。このままいけば、非常に困難な状況で平成30年度には国保の広域化とともに1,700億円の財政支援も予定されているということになっています。医療費が年々増加する状況の中で、恒久的な財源を確保することなく保険料を引き下げた場合には、後年度において大幅な保険料の引き下げや新たな財源対策を講じなければならない状況に陥り、  
制度の維持や健全かつ安定的な事業運営に大きく影を落とすことにもなりかねませんので、私たち民進党は引き下げを今反対させていただいております。

そして、町内会、自治会、これ非常に大切な問題で、コミュニティーが成立しづらいということなんですが、私も役をさせていただく中でなかなか若い方もお仕事が忙しいとか、また年を重ねられた方も体の調子が悪いとか介護に忙しいとか、それぞれ御家庭で事情があります。本当にできる範囲でやっぱりやっていきたいと思いますということで、それぞれが皆さん支え合って、今、頑張らせていただいているところです。ですが、やっぱり町内会、自治会でもできないこともあるかと思うので、そのあたりはしっかりと行政のほうも支援をしていただき、支援をしていただきたいということで、今回は要望もさせていただいております。町内会、自治会でコミュニケーションをしっかりとって皆さんで支え合っていくということは非常に大切なことだと常日ごろから感じておりますので、この問題に関しましては、これからもしっかりと必要性を皆さんに伝えていきたいなというふうに思っております。

以上です。

## 司会

ありがとうございました。

時間もかなり超過をいたしまして4時になりました。最後、どうしてもと質疑のある方がいらっしゃいますので、最後お1人、質疑していただきたいと思います。よろしく願いいたします。

## 質問者（手話通訳）

私たち、聞こえない者、きょう来ています。私たちの状況は皆さん知っていると思います。若いときは働いてばりばりしていましたが、最近の聞こえない方はもう70を超えています。さらに、今、聾啞者の中では80以上の方も聾啞協会の会員で10人ぐらいいます。その10人が歩けないとか車椅子の生活になっていたり、そういうことになっています。そのような人をほっておくのか、聞こえない方はコミュニケーションができないということになっています。できれば、聾啞者の集会のとき、議員さんの方来ていただいて講演をしていただき、そして情報がないので勉強をするということで、なかなかその場に行けないの、そういう場に議員さんのほうが来ていただくということ、そういう場にも連れて行くこと、おうちから連れ出すということもなかなか難しいです。

聾啞者の場合は、手帳の1種、2種というのを持っていますが、そういう手帳を持って

いても援助ができない、そういう方もいらっしゃるということです。宇治市に対して、80以上の障害者の方、聾啞者の方に対してタクシーチケットをいただきたい。それでもなかなかそれは要望は認められていません。財政がないということで、そういう状態で返答があります。足が不自由で歩けない方、そういうことも必要だと思います。

今、聾啞者の場合は、手話言語条例の運動に対して取り組んでいます。手話言語といいますと、聾啞者の手話が日本語の言葉、音声言語と同じだということです。皆さんがおしゃべりになっているように、私たちは手話を使ってお話をしています。それが手話が言語だということになります。宇治市でもそのような制度、ルールをつくっていただきたいというふうに要望を出していますけれども、まだ決まっていない状態です。市民の皆さんも手話に理解をしていただきたいというふうに思っております。

以上です。

## 司会

ありがとうございます。

先ほど、集会に対して議員さんに来ていただきたいという要望でよろしいですか。1点目は。

そこはまた、しっかりと協議をこれからしていきたいと思いますので。

そして、2点目は手帳所持の方への援助について、タクシーチケットについて。これは質問でよろしいですか。

## 質問者

はい、そうです。

## 司会

要望ですか。

## 質問者

視聴覚障害の1級、2級の人に対してもタクシーチケットを欲しいという要望です。

## 司会

わかりました。じゃ、しっかりとこれも議会で協議してまいりたいと思いますので、今後よろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして質疑の時間を終了させていただきます。

大変たくさん皆さん御意見を聞かせていただきました。ありがとうございます。

それでは、今の御意見、要望を聞かせていただきました上で、最後にまとめとして各会派から時間をとらせていただきたいと思います。最後、2分間というちょっと短いですが、何とかまとめていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、公明党議員団からよろしく願いいたします。

## 6. 各会派・無会派議員総括（各2分）

### 公明党議員団

きょうは大変貴重な御意見をありがとうございました。皆さんの御要望をしっかりと受けとめて、今後、議会のほうに生かしてまいりたいと思います。

まとめますと、本当に何をやるにしてもなかなか予算が要るということに尽きるのではないかなと思います。その中でいかにして収入をふやして無駄をなくしていくか、ここに私は大きなポイントを持っております。なかなか法人税も市民税も厳しいですので収入をふやすというのは難しいかもしれませんが、ここにまず挑戦していきたいのと、無駄をなくしていく、ここを当局ともしっかりと議論をして大きな無駄をなくし、そしてそれを子育て世代、今もありましたさまざまな皆さんの福祉の施策に使っていく、それが結局は宇治の市民サービスの向上、そしてさまざまな人の宇治に住みたいという思い、人口増加につながっていくと思っておりますので、今後しっかりと皆さんの御意見を聞いて頑張ってまいりたいと思いますので、本日はありがとうございました。

以上でございます。

### 司会

それでは、京都維新・宇治、よろしく願いいたします。

### 維新

きょうでつどいは5回目ですけど、こういう機会がたびたび行われればいいと思い

ます。そして、お約束したいんですが、要望があれば出かけて行きますので、議会事務局のほうへ御遠慮なくおっしゃっていただきたいと思います。

予算第一でございまして、何しろ年収200万円の人が630万円の年間の生活をしているわけですから、この中からどこをへつってどこをふやしていくかということになりますので、時間はかかるかと思えます。しかし、こうしてたびたびお会いしているうちに少しずつ動いてくるんじゃないかというふうに思っております。よろしく願いいたします。

## 司会

続きまして、浅井議員、よろしく願いします。

## 無会派

きょうは本当にいろいろと貴重な御意見いただきましてありがとうございます。

常々最近よく思うんですが、我々地方議会なり地方議員といいますが、どういう役割を果たしていかなければいけないのかなということをよく思います。きょう、報告をさせていただいた予算、予算は市長が提案をするわけです。これ議員が提案できないんです。市長しか提案できない。また、あるいは決まった予算について、執行するのも市長が執行するんです。我々議員が執行するわけではありません。そしたら、議会はどういう役割かといいますと、その提案されたものを議会でしっかりと議論をして、それを決めるか決めないか、予算を通すか通さないかという議決権が議会にももちろんありますし、それから、その過程でチェックしていきます。チェック機能とか監視機能とか、そういった機能は我々議会が持っております。そういった意味では、非常に大切な役割を持っていないければなりませんし、これからも皆さん方のいろんな率直な御意見をしっかりと聞かせていただきながら、議会での議決権、またあるいはチェック機能や監視機能を十分に果たしていくことができますように頑張っていきたいと思っております。

ありがとうございます。

## 司会

次に、共産党議員団、よろしく願いします。

## 共産党議員団

どうもありがとうございました。限られた時間ですので、皆さん、十分に御意見お伺いすることができなかつたかと思うんですけれども、私どもも短い時間で説明をするということで十分な説明もできなかつたんですが、本当に貴重な御意見いただきましてありがとうございました。

特に、障害者の方などは移動手段が大変だということは常々聞いてますし、先ほどの話なども本当に大事な話だと思っています。やっぱり、そういうところにしっかりと施策を打っていくということが自治体、行政の仕事ではないかというふうに私は思っているわけです。この間、市当局も人口減少で税収も落ち込んでくるから大変だという暗い話ばかりなんです。だから、何を削っていかうかという話ばかりになってきて、本当に暗いわけですが、確かに人口減少だとかそういうことはあるわけけれども、私はやっぱり税金の使い方をどうしていくかということをしかりとやっていかなければならないと思っています。先ほども話しましたがけれども、太閤堤では70億円を越すような、そういう事業を今やろうとしているわけですから、そういうことをしかりと見直していく、こういうことが大事だというふうに思っています。

議会の役割というのは、私もしかりと自覚をしなければならぬと思ってるんですが、市長がいろいろ予算を立てるわけですがけれども、これ議会の議決がなければ市長は1円たりとも皆さんからいただいた税金、これを執行することができないわけです。ですから、議会の判断というのは非常に市民生活にとっても重要な責任があるわけです。ですから、私もしかり皆さんの声を反映した、そういう議会が判断できるように頑張っていかなあかんと思いますし、また今後とも皆さん方の忌憚のない御意見をお聞かせいただきながら、私も頑張っていきたいと、私どもはしかりと反対だけではなくて、具体的な改善目指して提案をしていく、こういうこともしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

どうもありがとうございました。

## 司会

次に、民進党市会議員団、よろしくお願ひします。

## 民進党議員団

貴重な御意見をきょうは本当にありがとうございました。

629億6,000万という過去最大の当初予算、きょうは非常に厳しい財源というところのお話を聞いていただくことになりましたけれども、やはり住みやすい、住みよい、住んでいただく、そして雇用の問題、魅力情報発信も含めて、しっかりと話し合っただけで議論を重ね施策に上げて取り組んでいきたいと思っています。そして、あれもこれもではなくて、必要なものは残して頑張れるところは頑張る、優先順位を考えて市が一方的に決めるのではなくて、やはりそれは市民ニーズの皆さんに合ったものを推進していく、よりよいものにしていくために今後も市民の方々の声をしっかりと受けとめさせていただきまして議会に反映して努めていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

## 司会

自民党議員団、よろしく申し上げます。

## 自民党議員団

失礼いたします。きょう、本当に皆さんには大変お忙しいところ御参加いただいて、またこうして最後までおつき合いいただきまして本当にありがとうございました。

きょうも会議の中でもいろいろと意見が出てましたように、今、日本はやっぱり少子高齢化、人口減少社会と言われてて、この宇治市でも人口流出が止まらない、こういう状況の中で、今、宇治市に求められているのはまさにどういう形で運営をしていくかという都市経営、経営者としての手腕だと思います。この宇治市、株式会社宇治市と考えますと、きょうお集まりいただいている市民の皆さんというのはお一人お一人が株主なんです。間歩主の皆さんが本当に納得をしていただけるような市政をつくっていくのが、その窓口になるのが私たち議員の仕事だと、こう考えています。

私どもは、これから宇治市に対しても、例えば黙ってても税収が入ってくる、そういう時代ではありませんから、親方日の丸的な仕事からの脱却、お役所仕事と言われるような仕事から脱却を促せるような施策を提案していきたいと思っておりますし、やっぱり曖昧なことを排除して、その仕事をいつまでに終わるんだという仕事の納期というものを明確にすることを行政に対して求めていきたいと思っています。

きょうは、木本議員と私、堀が御回答させていただきましたけれども、私ども自民党議員団は坂下弘親議員、久保田幹彦議員、荻原豊久議員、中村麻伊子議員、6名で構成をさ

れている議員団でございます。これからも皆さんからの御意見をしっかりと議会で反映して、自民党の市会議員団の議員に投票してよかったとっていただけるような活動をこれからも頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。本日はありがとうございました。

## 司会

ありがとうございます。

最後に、閉会に当たって宇治市議会副議長、坂本優子より御挨拶を申し上げます。

## 7. 閉会挨拶

### 坂本優子 副議長

皆さん、まだまだ言いたい、まだまだ聞きたいと、そんなふうに思っているかと思うんですけども、第5回市民と議会のつどいの閉会に当たって、一言御挨拶を申し上げます。

本日は、本当にお忙しい中、たくさんの方に御参加いただきまして、心からお礼申し上げます。

地方自治体におきまして、私ども議会が意思決定を行う際には、市民の皆様の意見を十分にお聞きする必要があるがございます。

本日のつどいで皆さんから寄せていただきました貴重な御意見、耳の痛い話もありましたけれども、真摯に受けとめさせていただいて、そのことを議会活動の中に生かして、さらに開かれた議会目指して、頑張っていきたいと考えております。

皆様におかれましても、議会の傍聴やインターネットの中継を通じて、今後も皆様のほうが議会活動を厳しくチェックしていただきたいと、忌憚のない御意見、今後もお寄せいただきたいと願っております。

本日は、本当にありがとうございました。